

# はじめに

癌（悪性新生物）はわが国における死亡原因の第一位を占めています。癌の診療において画像診断は重要な役割を担っており、CT、MRIなどの画像は欠かせません。画像技術の進歩に伴い、その価値はますます高まっていくことが予想されます。したがって、多少の差こそあれ、医療従事者は癌の画像診断に携わる必要が生じます。しかし、画像診断に苦手意識を感じている方が多いのも事実ではないでしょうか。

筆者は「画像診断に絶対強くなるワンポイントレッスン」（2012年、羊土社、画像診断の入門書）ならびにその続編（2016年、羊土社）を、メンターである扇和之先生らと上梓してきました。当著書は幸運にも好評を得ましたが、救急疾患を主眼としていたため、悪性腫瘍は基本的に扱いませんでした。癌の画像診断に関する書籍は、専門医向けに書かれた本はあるものの、幅広い読者を対象としたものはこれまで見当たりません。そこで今回、羊土社の方々の協力を得て、癌の画像診断に焦点をあてた新しいタイプの入門書を発刊することになりました。

本書は頻度の高い悪性腫瘍に絞って、一冊で全身を網羅しているのが特徴です。具体的には「頭頸部、肺、消化管、肝・胆道、膵、泌尿器系、婦人科系、血液系」の8章で構成されています。各章は独立しているので、どの章からでも読み進めることができます。特に重点を置いたのは「早期発見のコツ」、「腫瘍発見時のマネジメント」、「正確なステージング」、「良性・悪性の鑑別ポイント」の4点で、若手専攻医と各科の専門医、放射線科医の会話形式でわかりやすく書かれています。また、最新の病期分類表を掲載し、付録にはリンパ節のシェーマもまとめているため、読影時の資料としても活用できます。

本書が癌の診療にかかわる方々の役に立てば幸いです。最後に、本書の企画・構成から発刊に至るまで熱心に取り組んでくださった羊土社編集部の子庄美紀さん、清水智子さんをはじめ編集部スタッフの方々に深謝申し上げます。

2018年8月 蝉時雨を聴きながら

堀田昌利